



No.050 コロナ危機 その3 有事の心得 地域封鎖 緊急事態宣言



<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/tokyo/>

コロナ危機はいよいよ本格的な隔離、閉鎖、統制経済といった実力行使の段階に入りました。

有事対応は公権力を持っている国と自治体の仕事です。こういうとき、自粛要請であれ強権発動であれ、統治機構の役割と本質が最終的には物理的な力にあることをあらためて認識させてくれます。

非常事態では自衛隊や国家による強権発動が脚光を浴びますが、現実には中央政府は生活現場に対応し切れません。一定の圏域に人を閉じ込めて地域の安全を守ろうとすると、警察も病院も学校もすべて現場は自治体にあって、それを物理的に動かす力は自治体にしかないのです。

もちろん国との緊密な連携は大事ですが、感染状況や生活環境は地域によって全く違います。全国一律の発想で手遅れにならないよう、首長の責任と判断で現場に応じた有事対応ができないかもしれません。

有事は人の命がかかっています。現場で何を優先させるのか、シンプルに説明できることが重要です。あれも大事、これも大事、と言っていると現場で対応できません。平時ならいいですが、平時ルールで対応できないからこそ有事対応なのです。

こういうルール破りのような措置が正当化できるのは、専門家の合理的、理性的知見のもと、住民の生命と財産を守るために必要であることがきちんと説明できるからです。

ルールを守るのが仕事だと思っている行政が平時ルールを破る対応をしなければならない、しかもその内容が客観的に適切で賢明な判断であってはじめて正当化される…これは全責任を背負うリーダーにとって、すごいプレッシャーだと思います。

しかし、逃げられないし、私たちはリーダーが賢明であることを祈るばかりです。